Bestopia21 ベストピア
第408号
2021年2月号
bestopia.jp
パリ通信
第11号

「月の庵」に学ぶ

COVID-19は人間の知恵を呼び起こし工夫することを教えにやってきたように感じます。この環境のもとでZoom,Google meet等の手段で会議や研修することが可能になり、特に研修等は場所を問わずどこで開催しても、全世界から参加することができるようになりました。私も週一度はこの手段を活用して興味ある研修に参加しています。

「月の庵」の主宰者は感性論哲学の後継者である月野直美姉で、ファシリテーターも勤められます。趣向は、お茶を飲みながらゆっくりと語り合う「禅・哲学カフェ」というユニークな場を提供しておられる。私は初めての参加にもかかわらず、今回のテーマを私の希望によって**「人生を美しく終えるために」**としてくださった。若い人には厳しいテーマであったにもかかわらずの思い切った採用に感謝して参加させて頂きました。

時間は2時間30分でテーマに合わせてレジメを用意され、誰でも会話に参加できる工夫がなされています。今回は⑴ニーチェ・⑵感性論哲学・⑶道元の3人の禅・哲学者の言葉が用意された。時にあって美しい構成であると感じました。

⑴フリードリヒ・ニーチェ（1844~1900)からの言葉

①人間は橋であって目的ではない。
②あなたがたの死が人間と大地をけがすものとならないようにしなさい
③あなたがたは、かって一つの喜びに対して「然り」と肯定したことがあるのか
　おお、我が友人たちよ、もしそうだったら
　あなたがたは、またすべての嘆きに対しても「然り」といったわけだ。
④万物は鎖でつなぎ合わされ、糸で貫かれ、深く愛し合っているのだ。

解説　運命の必然性を肯定して自己のものとし、愛しうるとき、人間の本来的な創造性を発揮しうる。（運命愛・ラテン語でAmor fati）

{筆者の記事}

このニーチェの言葉をどう感じるかを語れば良いのであって、ニーチェの哲学を論じ合う必要はなく、場は和やかに進む。各自が言葉を味わい聴けば内省となる。
月野姉はニーチェを深く学び、道元禅にどう結びつくかを考えておられるのであろうと私は想像しています。

⑵芳村思風・（感性論哲学者1942~）からの引用

感性論哲学の目的「人類の人間性の進化」、代表著書「人間の格」を紹介された。
「意志と愛の統合」と題して月野姉の感性論哲学の発展形態を示された。
①求感性ーーー感性の本質である。積極的に感じようとする力（筆者の加筆）
②異和感ーーー違和感ではない。①②の発展形態は著作権のため割愛します。
これらの二つを掛け合わせて生まれるのがビジョン・使命。

一句を紹介される「道一つ　ただ歩くのみ　初日の出」（芳村思風）
感性論哲学の始祖・[芳村思風　感性論哲学]のHPより一部抜粋します。

哲学は、破壊の学問です。
新しい時代をつくるために、今までの常識を破壊して
新しい常識をつくる
「将来はこうなる」という科学的な予測ではなく、
「こんな未来をつくる」という理想や夢を描いて
そのために何をするかを構築していく
新しいものをつくるためには、
今あるものを壊さなければいけない

{筆者の記事}

月野直美姉は女性最初の感性論哲学認定後継者（先に男性一人がいます）です。
感性論哲学を学ぶ方は非常に多く、芳村思風氏は今も全国を行脚されています。
筆者も初期の生徒で話題に尽きることがありません。

⑶道元（1200~1253)からの引用

日本における曹洞宗の開祖として知られる鎌倉時代初期の禅僧。
同宗旨では高祖と尊称される。

仏道をならうというは　自己をならうなり
自己をならうとは　自己をわするるなり
自己をわするるというは　万法に証せらるるなり

万法に証せらるるというは　自己の身心および　他己の身心をして
脱落せしむるなり

放てば　手にみてり

{筆者の記事}

以上の月野姉の引用は縦書きです。姉は19歳から禅寺にて坐禅を始められた。25歳にインドへ瞑想の旅をされ、33歳から15年間僧侶に師事された。その後に感性論哲学に出会う。このような体験と知識から上記を解説してくださった。
この(1)(2)(3)が連続で話されたのではなく、各項目毎に質疑応答があり、参加者は自由に感想を述べることができる。聴くだけでもかまわない。各自の自発的参加でオーケイである
この後の1時間が全員参加の話し合いとなる。
テーマが絞られて出される
「人生を美しく終えるために」
①あなたは、何をする？　②または、何をやめる？③どのように生きていますか？
これらの内容については秘守義務があり、記すことはできませんが、参加者の貴重な体験をうかがって感動を共有できることは、真に至福の時でした。若い方も積極的に語られ学ぶことに満たされた「月の庵」の一時でした。

筆者の感想とその後の瞑想

Zoom参加者の中では私が最高齢者になることが殆どです。材木屋（木が多い・気が多い）と称している私は興味関心のあることには恐れず参加しますが、時として場違いに恥じることもあります。参加の動機は「若い人との交流」です。頭が固くなっていますので少しでも柔らかくしたいと願って参加しています。今回は私の希望テーマであったので発言が多すぎました。反省しております。話したかったことを、まとめてみました。

(1)人生の四季

五木寛之氏の著作から「人生の四季＝四住期」を教わったことがあります。（これはヒンズー教の考え方から来ているとのこと）人間の一生を
①「学生期（がくしようき）」
②「家住期（かじゆうき）」
③「林住期（りんじゆうき）」
④「遊行期（ゆぎようき）」の四つの段階に分けて考える。
　学生期には師に絶対的に服従し、ひたすら学び、厳格な禁欲を守らなければならない。
　家住期では、親の選んだ相手と結婚して、職業に就いて生計を立てなければならない。そして子どもを育てるのが大切で、このことによって子孫を確保し、祖先への祭祀（さいし）が絶えないように心がけなければならない。
　第三の林住期は、これまでに得た財産や家族を捨て、社会的な義務からも解放され、人里離れたところで暮らすことができる。
　最後の遊行期は、この世への一切の執着を捨て去って、乞食となって巡礼して歩く。インド人たちは、永遠の自己との同一化に生きようとしたのである。

{筆者の記事}
体験と伝記の研究から人生の最盛期は５０代だと考えています。死に物狂いで働かねばならない40代を通過してやって来るのはほぼ共通しているようです。

⑵すべてのことに時がある

「コレヘトの言葉」から3章「人生は不可思議な神の賜」（聖書協会共同訳からの引用）
①天の下では、すべてに時機があり、すべての出来事に時がある
②生まれるに時があり、死ぬに時がある。
植えるに時があり、抜くに時がある。
③殺すに時があり、癒やすに時がある。
壊すに時があり、建てるに時がある。
④泣くに時があり、笑うに時がある。
歎くに時があり、踊るに時がある。
⑤石を投げる時があり、石を集める時がある。
抱くに時があり、ほどくに時がある。
⑥求めるに時があり、失うに時がある。
保つに時があり、放つに時がある。
⑦裂くに時があり、縫うに時がある。
黙するに時があり、語るに時がある。
⑧愛するに時があり、憎むに時がある。
戦いの時があり、平和の時がある。
⑪神はすべてを時に適って麗しく造り、永遠を人の心に与えた
だが、神の行った業を人は初めから終わりまで見極めることはできない。

⑶神の人モーセの詩・詩編第90章（聖書協会共同訳からの引用）

③「人の子らよ、帰れ」とあなたは言い、人を塵に帰らせる。
④まことに、あなたの目には、千年といえど過ぎ去った一日のよう
⑨私たちの日々はあなたの激しい怒りに、ことごとく過ぎ去り
私たちは吐息のように年月を終える。
⑩私たちのよわいは七十年、健やかであっても八十年
誇れるものは労苦と災い、瞬く間に時は過ぎ去り、私たちは飛び去る
⑫残りの日々を数えるすべを教え、知恵ある心を私たちに与えてください。
⑭朝には、あなたの慈しみに満たされ、すべての日々を楽しみ、
喜ぶことができますように。

{筆者の記事}

私も今年8月で80歳を迎えます。喜怒哀楽、満ちあふれる恵みを頂きました。これ以上何を求めましょう。これからの備えの為に、今年から最も欠けていたことに向かいます。
「人生を美しく終えるために」私が始めたことは、昨年の大整理に続いて、長年、延ばし延ばしてきた聖書の味読です。最近聖書も改訳されましたので2冊新しく求めました。1冊は「聖書協会共同訳」（2018版）、1冊は「現代訳聖書刊行会」（2020年版）上記⑵⑶はいずれも「聖書協会共同訳」からの引用です。手つかずにある「ルターの宗教思想」の諸資料の熟読を日々の糧にします。
今ひとつ、この世にあるかぎり知性の磨きも必要ですから、交流分析TAの学び直しを始めました。自律性の確立と救いの信仰を並立して学び「心で感じる神」を「求める者」として歩みます。

⑷「歓喜の歌声を聴く」力をつける

「このように、私たちは信仰によって義とされたのだから、私たちの主イエス・キリストによって神との平和を得ています。このキリストのお蔭で、今の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています。そればかりでなく、苦難をも誇りとしています。<u>苦難が忍耐を生み、忍耐が品格を、品格が希望を生む</u>ことを知っているからです。希望は失望におわることはありません。私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。（ローマの信徒への手紙第5章①～⑤）

この聖句はアンダーラインの所が新しくなりました。前の訳では「品格」が「練達」になっていました。多くの方々が引用された有名な聖句です。私はこの変更内容をある著名な方その方の人生に相応しいと感じ送りました。早速ご返事を頂きました。その内容は次のように謙虚でした「『苦難は忍耐を』につきましては、私は充分に受納して参りました。しかし『忍耐が品格を』までには至りませんでした」
この方は練達をなされて多くの方に希望を与えてこられた人です。
希望の実現は歓喜です。この歓喜の歌声を聴くために〈第九〉を聴き、目を覚まします。

⑸老いの中に目を覚ます。

①「あなたがたは今どんな時であるかを知っています。あなたがたが眠りから覚める時がすでに来ています。今や、私たちの救いが、初め信じた時より近づいているからです。
②「心を新たにして自分を造り変えていただき」
③「だから、私たちは落胆しません。私たちの外なる人が朽ちるとしても、私たちの内なる人は日々新たにされていきます」
④「希望をもって喜び、苦難に耐え、たゆまず祈り」「喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣きなさい。互いに思いを一つにして、高ぶらず、自分を賢い人と思ってはなりません」
引用①ローマの信徒への手紙第12章⑪　　②ローマの信徒への手紙第12章②
③コリントの信徒への手紙二第4章⑯　　④ローマの信徒への手紙第12章⑫⑮

新たに造り変えらるのは「信仰のみ」とルターは教えています。これが如何に難しいか。難行を喜びを持って進んでいます。そのために多くのことを捨てました。

「月の庵」から教わったことを記しました。学びはすべて益となって私に働きますが忘却との戦いも冷徹に私の前にあります。根気よく一歩一歩の歩みです。有難うございます。

撮影小原靖夫
「未開紅」という梅です。バラ科アンズ属
花は淡紅色の中輪です、満開になっても、なお開き遅れの花弁があることから、この名がついたと言われる。2021年2月3日撮影

春一番波立つ池に夫婦鴨、梅の花つよく咲き誇る。
2021/02/04早い春一番小田原市諏訪原公園
人は飛ばされそうな強風にも満開の梅の花は散らず、枝はしなやかになびく、柔にして剛たり。
この号の写真撮影はすべて筆者の散歩道